

分布の変化を読み取り，推移を推理しよう

— ヤマト王権の勢力の拡大を例に —

兵庫教育大学 准教授 山内敏男

1 はじめに

生徒から、歴史学習は暗記物と即答されることに慣れていませんか？なぜ歴史学習は暗記物の代表のようにいわれてしまうのでしょうか。

歴史的分野では、各時代の特色をふまえて「歴史の大きな流れ」を理解することが求められています。また、新学習指導要領では「社会的事象の歴史的な見方・考え方」について、「時期、推移などに着目」することを求めています。学習内容が時間の経過に沿って扱われることは、歴史学習の特徴といえるでしょう。しかし、単に時間の経過に沿って歴史的事象を並べる学習にとどまっていれば、歴史的事象の順序を暗記するだけの学習になりかねません。歴史学習を暗記物から「アクティブ・ラーニング」(以下、AL)へと転換するポイントは、「なぜ・どのように変化したのか」を問い、歴史的事象を意味づける(意味や意義、価値をもたせる)ことにあるといえるのではないのでしょうか。

そこで今回は、ヤマト王権の勢力の拡大を対象に、前方後円墳の分布の変化から歴史的事象を意味づけ、推移を推理するALを提案します。

2 ヤマト王権の勢力の拡大と古墳

『社会科 中学生の歴史』(以下、教科書) p.26～27では、「ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのでしょうか」という学習課題が設定され、古墳と豪族の出現の関係、倭国と朝鮮半島との関係、ヤマト王権の勢力の拡大にともなう豪族との関係の変化や、朝鮮半島や中

国との外交などが記述されています。つまり、ヤマト王権を中心に関係の推移をたどる内容構成になっているといえます。

授業の導入では、前時の学習課題「日本列島の各地にあった国々はどのようにしてまとまっていったのでしょうか」(教科書p.24)を問い返し、卑弥呼が中国との関係強化をはかることにより、ほかの国より優位にたとうとしたことを想起させます。優位にたつことは勢力の拡大につながることを確認したうえで本時の学習課題を提示し、学習を展開していきます。

学習課題：ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのか、前方後円墳の分布の移りかわりから推理しよう。

ヤマト王権の広域支配は、前方後円墳の全国的広がりから見て取れます。まず、3世紀から6世紀までの前方後円墳の分布図4つを、年代をばらばらにして示します(図1～4)。これをグループで話し合っって年代順に並べかえ、「どのように変化したのか」を推理する活動を通して、ヤマト王権の勢力の拡大をとらえさせます。

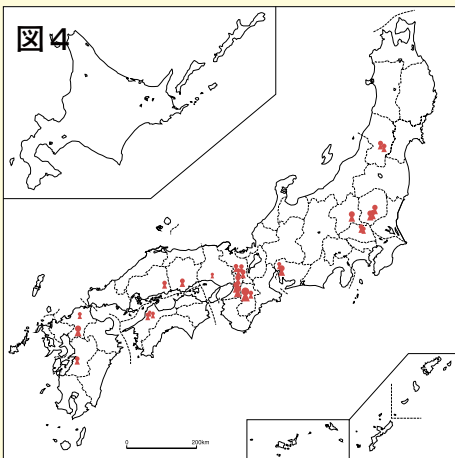
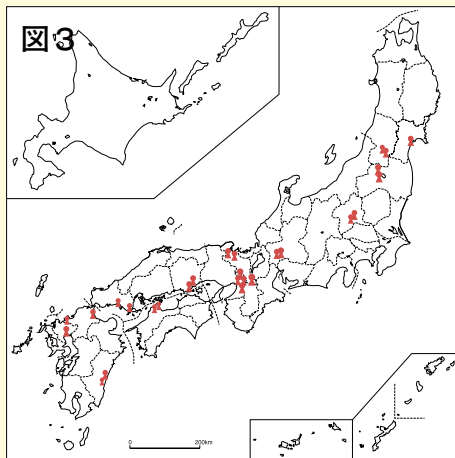
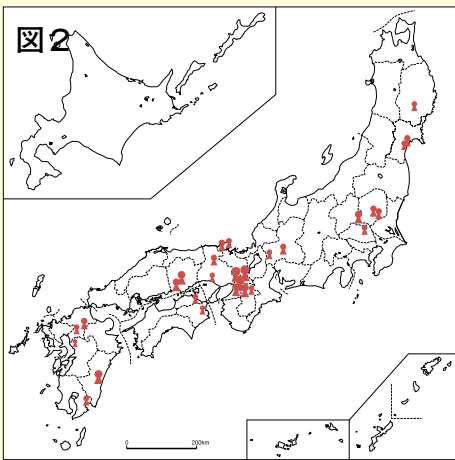
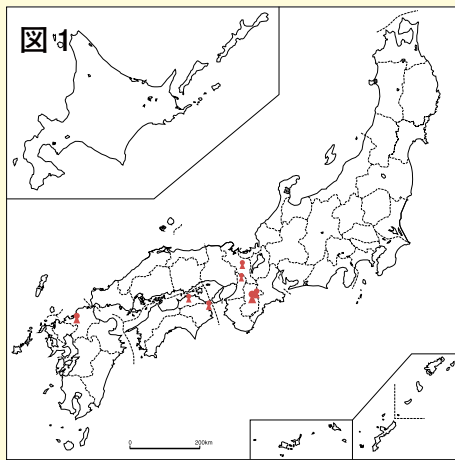
ALを成立させる重要なポイントは、生徒に並べかえを指示する際、根拠を教科書からぬき出すよう指示することです。例えば、「教科書p.27に『4～5世紀には各地に広まってきました』とあるので、分布が一番広がっている図2が5世紀のようすだと思います」などのように、根拠をあげて話し合わせます。

年代順にすると図1→図3→図2→図4となることを確認したら、分布の特徴を読み取らせ

ます。3世紀(図1)は近畿地方を中心に四国、九州地方にみられる程度でしたが、4世紀(図3)になると西は瀬戸内海沿岸、東は岐阜から群馬、宮城まで分布しています。ここで、分布の理由を考え、意味づけをします。例えば、「なぜ図3では瀬戸内海沿岸に多く分布しているのか」と問うことで、ヤマト王権が近畿から九州、大陸までのルートを重視していたからであるという意味づけられます(教科書p.26「ヤマト王権は、朝鮮半島南端の加羅(伽耶)地域とのつながりを強めながら…」)。また、図1～4と教科書p.26「②鉄の延べ板の出土地」を比較して分布の類似性を見つけ、朝鮮半島からの鉄や技術と前方後円墳との関連を意味づけることもできます(教科書p.27「ヤマト王権は、豪族たちに朝鮮半島からの鉄や技術などを与えるかわりに…」)。

このように、教科書の記述を根拠として時期や推移について推理し、説明させることで、歴史的事象を意味づけることができます。

ところで、図1～4の並べかえの際に、生徒は前方後円墳が南北に拡張し続けたのかどうかについて迷うことが想定されます。6世紀(図4)になると、総じて前方後円墳は小規模化します。ここで意味づけたいのは、仏教伝来の影響です。教科書p.27の「6世紀には、仏教や儒教を伝え、日本の人々の信仰や文化に大きな影



年代をばらばらにした前方後円墳の分布図(図1:3世紀,図2:5世紀,図3:4世紀,図4:6世紀)石野博信編『全国古墳編年集成』(雄山閣出版,1995年)p.182~183より作成。古墳の大きさも加味して図中に示しています。*図の作成にあたっては、クラーク記念国際高等学校八田友和先生より協力を得ました。

響を与えました」という渡来人についての記述が手がかりとなります。仏教伝来により、権威の象徴が古墳から寺院へと変わっていったことをおさえましょう。寺院の建造のために古墳の土が使われるようすが教科書p.30~31の「タイムトラベル③」にえがかれています(A-B2)ので、ぜひ確認してみてください。

3 おわりに

歴史的事象を意味づけ、「なぜ・どのように変化したのか」、「変化によりどのような影響を及ぼしたのか」と問うことで、資料を分析・解釈し、生徒がみずから推移を推理していく活発なALへとつながっていきます。

帝国書院の指導者専用サイトに、図1～4の地図を掲載する予定です。
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)